

2023年4月18日(火)

老球の細道726号

会津でのBリーグ雑感

イギリスで考案されたサッカー、ラグビーでは、あれだけ広いコートของเกมに審判が1人しかいない(現在はラインズマンなどがいるが)。イギリスはジェントルマンの国で騎士道精神があるため、ずるいことやルール違反は基本的にやらないだろうという前提でゲームが行われるからだという。

それに反してアメリカで考案されたバスケットボールは、室内で狭いコートにもかかわらず審判が2~3人もいる。アメリカは移民の国で多様な人種、多様な宗教を持った人間の集まりのために、共通の倫理観などが持ちにくく、多くの審判で身体接触などのルール違反に目を光らせないとトラブルを防ぎきれないからだといわれる。

歴史的にイギリスの騎士道精神、アメリカの開拓者精神などが影響してスポーツのルールや審判の人数などに影響を及ぼしたことは非常に興味深いことである。しかし今やサッカーもバスケットボールもルールやプレイ、戦術などが高度化、複雑化して、審判も人間の目だけでは判断できないくらいになってきている。あらゆるスポーツでビデオ判定が利用されるようになってきた。バスケットボールも将来はAIを駆使したドローンがコートの上を飛び回りながら審判をする時代が来るのではないだろうか。

先日、あいづ総合体育館でB2リーグ第31節の福島ファイヤーボンズ対アルティーマー千葉の2試合が行われた。会津では4年ぶりの開催であったためか、初日が1,620名、二日目が2,025名と会津開催における史上最高の観客数を記録した。試合は二日間共観客数にふさわしい好ゲームであった。ふだんトップゲームを生で見ることの少ない会津地区の子どもたちにとっては大いに刺激になったことだろう。

福島は今回のゲームに勝てばB2のプレイオフ出場が決まる。一方千葉も東地区1位でプレイオフを行えるのかかった大事なゲームだった。千葉は今シーズン初めてB3からB2へ加入した新参チームであったが、前オーストラリア男子代表のヘッドコーチを招聘して強化し、現在東地区1位にいる。実力的に今シーズンB2のプレイオフを勝ち抜き、来シーズンはB1入りをするのではないだろうか。

福島と千葉のゲームは、福島がアウトサイド、千葉がインサイド攻撃と自チームの特徴を出した好ゲームであった。しかし、二日目の大接戦を2点差で逆転負けした福島の敗因はテクニカルファールであった。ゲームの勝敗を決する3、4Qにおいて福島は審判へのクレームでテクニカルファールを2回取られ2本のフリースローを相手に与えてしまった。その2点が結果的に77対79となった。

プロのゲームはあまりにも審判へのアピール、クレームが多すぎる。審判の判定はそれによって覆ることはほとんどない。であれば、クレームで熱くなる前に、頭を使うところ、コミュニケーションをとるところは次のプレイ、戦術、作戦である。コーチ、プレイヤーの戦う相手は審判ではない。相手チームである。プロもアマも同じ。そろそろ気づいてほしい。